

職業実践専門課程の基本情報について

| 学校名 | 設置認可年月日 | 校長名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|---|--------------|---|--|---|----|--------|---|------|------|-------------|---|-----|-----|---------------|---|-----|----|--------------|---|-----|-----|--------|---|-----|----|
| 愛知ペット専門学校 | 平成20年2月22日 | 牧 良 | 〒444-0813 愛知県岡崎市羽根町鯉池246-1 (電話) 0564-57-8139 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設置者名 | 設立認可年月日 | 代表者名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校法人 アイビーン学園 | 平成20年2月22日 | 牧 良 | 〒444-0813 愛知県岡崎市羽根町鯉池246-1 (電話) 0564-57-8139 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 文化・教養 | 文化・教養専門課程 | 動物看護科 | 平成21年文部科学省 告示第86号 | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学科の目的 | 動物看護科は、主に動物病院に従事する有能な人材育成をする為に、必要な知識、技術を学ぶことを目的とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 認定年月日 | 平成26年3月31日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 2400時間 <small>全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数</small> | 990時間 | 75時間 | 1335時間 | — | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生徒総定員 | 生徒実員 | 留学生数(生徒実員の内) | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 40人 | 23人 | 0人 | 1人 | 3人 | 4人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学期制度 | ■2学期制: 前期:4月1日～9月30日 後期:10月1日～3月31日 | 成績評価 | | ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各学期末に行う試験、実習の成果や出席時数等の履修状況等を総合的に勘案して行う | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長期休み | ■学年始:4月1日～4月9日 ■夏季:7月21日～9月3日 ■冬季:12月15日～1月8日 ■学年末:3月16日～3月31日 | 卒業・進級 条件 | | 2年の修業年限以上の在学及び開設する授業科目の成績評価に基づく課程修了の認定を受けた者 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学修支援等 | ■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 主に担任による個人面談(電話連絡および保護者面談等含む) | 課外活動 | | ■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 毎年テレビ愛知主催のふれあいイベントに協力、本年度も学生の研修等の場として参加を予定している ■サークル活動: 無 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 就職等の 状況※2 | ■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 動物病院 ■就職指導内容 就職セミナーおよび担任による個人指導 ■卒業者数 11 人 ■就職希望者数 11 人 ■就職者数 10 人 ■就職率 : 91 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 91 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成 28 年度卒業生に関する 平成29年5月1日 時点の情報) | | 主な学修成果 (資格・検定等) ※3 | | ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>動物看護師統一認定資格</td> <td>②</td> <td>11人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス実務マナー検定3級</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス電話検定知能B級</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>秘書検定3級</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>5人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するが記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 | | 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | 動物看護師統一認定資格 | ② | 11人 | 10人 | ビジネス実務マナー検定3級 | ③ | 12人 | 9人 | ビジネス電話検定知能B級 | ③ | 12人 | 12人 | 秘書検定3級 | ③ | 11人 | 5人 |
| 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 動物看護師統一認定資格 | ② | 11人 | 10人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ビジネス実務マナー検定3級 | ③ | 12人 | 9人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ビジネス電話検定知能B級 | ③ | 12人 | 12人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 秘書検定3級 | ③ | 11人 | 5人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中途退学 の現状 | ■中途退学者 2 名 平成28年4月1日時点において、在学者21名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者19名(平成29年3月31日卒業生を含む) ※1年次前期末で転科を認める場合があり、上記年度は0名が転出した。 ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 学習意欲低下、学校生活不適應 ■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 随時面談を実施、オリエンテーション又はレクリエーション等の開催 | | ■中退率 10 % | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 経済的支援 制度 | ■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第三者による 学校評価 | ■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 当該学科の ホームページ URL | http://aichipet.com/?n=2028 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。
※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の割合をいいます。
②「就職」とは給料、資金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

| | | | |
|---|--|--------------------------|----|
| 1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係 | | | |
| (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針 | | | |
| 近年ペット産業を取り巻く分野において、めまぐるしく変化し、且つ進化し続ける市場を背景に、学校教育法(第124条)における「専修学校の目的」に鑑み、その専門分野において市場が求める実践的な知識・技術・技能を十分に認知するべく本学科が目指す職業教育に関連した企業と組織的に連携して必要十分な授業科目を創設していくこととし、またその実施に当たっては、当該専門課程の教育にふさわしい授業方法への改善・工夫を行った上で教育課程を編成することとする。 | | | |
| (2)教育課程編成委員会等の位置付け | | | |
| 動物看護科が目指す職業教育における関連事業の企業と連携し、同企業より当該過程に関連する専門分野に精通した各役職者等を構成員とした「教育課程編成委員会」を学校内に組織し、委員会の方針に沿って科長が編成を行い、学校長の許可を得てから当該年度の実施及び履行がなされるものとする。 | | | |
| (3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿 | | | |
| 平成29年4月1日現在 | | | |
| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
| 牧 良 | 愛知ペット専門学校 学校長 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(5年) | |
| 岩本 英司 | 株式会社アイピーシー 営業部部长 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(5年) | ③ |
| 脇田 亮治 | 一般社団法人全国ペット協会 専務理事 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(5年) | ③ |
| 栗田 晶子 | 愛知ペット専門学校 教務主任兼ドッグトレーナー科科长 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(5年) | |
| 細川 綾子 | 愛知ペット専門学校 ペトリマー科科长 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(5年) | |
| 芳賀 美咲 | 愛知ペット専門学校 動物看護科科长 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(5年) | |
| 東 晃司 | 愛知ペット専門学校 ペットアドバイザー科科长 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年) | |
| 伊藤 麻希 | 株式会社アイピーシー 名古屋事業部ペットサロン店長 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(4年) | ③ |
| 船本 佳実 | 株式会社アイピーシー わんわん動物園副主任 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年) | ③ |
| 宇野 哲安 | 有限会社宇野獣医科 院長 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(5年) | ③ |
| 大槻 祐介 | 株式会社アイピーシー 事業管理次長 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(5年) | ③ |
| ※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。 ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。) ②学会や学術機関等の有識者 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員 | | | |
| (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 | | | |
| 毎年度内で8月と3月の2回開催する (開催日時) 第1回 平成29年8月24日 14:00～15:00 第2回 平成29年3月22日 14:00～15:00(予定) | | | |
| (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 | | | |
| ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。 ①資格取得と取得時期の明確化・H29年度も4つ以上の資格取得を目標としていく。ビジネス系資格の導入を検討したい ②授業計画の告知と周知・H29年度は、H28年度に得た改善策をもとに授業計画の改善を図り、学生の社会人基礎力の向上を目指す | | | |
| 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係 | | | |
| (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 | | | |
| ペット産業界が求める知識及び技能を的確に反映すると共に、社会人としての基礎能力の向上を重視した教育を行う為、積極的に企業等へ学習活動の協力を求め、より実践的な専門性の確保を目的として学習機会(企業内実習、企業参加の学内実習活動等)を設定する。 | | | |
| (2)実習・演習等における企業等との連携内容 | | | |
| 実際のペット業界のしくみ、動物の健康管理・飼養方法等について学びながら、実際のお客様に対しての接客技術を取得することを目的として、担当スタッフ指導の下、実習を行う。 | | | |
| (3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。 | | | |
| 科目名 | 科目概要 | 連携企業等 | |
| インターンシップ | 連携する企業であるわんわん動物園やペット美容室等で実務研修を行う。 | 株式会社アイピーシー | |
| 飼育管理実習Ⅰ | わんわん動物園が保有する多種・多頭数の生体の飼育管理能力と専門的技術の基礎力を増強する。 | 株式会社アイピーシー | |
| 動物看護実習Ⅰ | わんわん動物園から生体の提供を受け、投薬方法、薬浴等実際の生体を使用し行うことで技術力の向上を図る。 | 株式会社アイピーシー | |
| 院内コミュニケーション | 学生等をオーナー、わんわん動物園保有する生体を患者動物と見立て、問診、診療補助、薬説明等を行うことで技術力の向上を図る。 | 株式会社アイピーシー | |
| 総合臨床実習 | 実際の動物病院等で実習を行うことで、より実践的な技術・知識を習得する。 | 宇野獣医科病院 | |

| | | | |
|--|----------------------------------|--------------------------|-------|
| 3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係 | | | |
| (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 「研修委員会」を設置し、最低でも年2回会合を実施することを規定に定め、最新のペット業界の動向等を把握し、必要な研修等を計画、実施する。例えば、本学科においては犬猫等の病気に関する最新の解剖生理学や健康管理学に関わる知識、又動物病院の商品・経営・診療に関わる知識等を得るため、積極的に勉強会や研修を実施する。 | | | |
| (2)研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等 株式会社アイピーシー付属動物病院にて、病院業務の実務研修を行った。 ②指導力の修得・向上のための研修等 教員同士の連携を図ることで、どの教員でもすぐ指導できるよう、学習意欲、学生の性格、学習レベル、社会人マナーレベル等、学生個人レベルの記録付けを行った。その記録を元に指導強化にあてることができた。 | | | |
| (3)研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等 株式会社アイピーシー関係各位から求める人物像、ペット業界のニーズ等についてヒアリングを行う。又、病院業務の実務研修も継続して行う。 ②指導力の修得・向上のための研修等 指導力強化の為、学生の学習意欲、学生の性格、学習レベル、社会人マナーレベル等の詳細を記録付けを行い、それを元に指導を行っている。これにより教員同士の学生の情報の共有化を図りより指導強化を図っていく。 | | | |
| 4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係 | | | |
| (1)学校関係者評価の基本方針 当該専門課程の教育にふさわしい教育活動が実施されたことに対する成果を検証し、必要な改善を速やかに行うことで教育水準の向上を図ることが重要である。また、学校教育活動に対しペット産業に関わる企業や保護者などと連携し意見を積極的に汲み取ることで相互理解の促進を図り、教育活動の改善と発展を推し進める。 | | | |
| (2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応 | | | |
| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 | | |
| (1)教育理念・目標 | ・理念・目的・育成人材像は定められているか 等 | | |
| (2)学校運営 | ・目的等に沿った運営方針が策定されているか 等 | | |
| (3)教育活動 | ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されている | | |
| (4)学修成果 | ・就職率の向上は図られているか 等 | | |
| (5)学生支援 | ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 等 | | |
| (6)教育環境 | ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている | | |
| (7)学生の受入れ募集 | ・学生募集活動は適正に行われているか 等 | | |
| (8)財務 | ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 等 | | |
| (9)法令等の遵守 | ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | | |
| (10)社会貢献・地域貢献 | ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている | | |
| (11)国際交流 | | | |
| ※(10)及び(11)については任意記載。 | | | |
| (3)学校関係者評価結果の活用状況 昨年度は“地域清掃”と称する活動を強化して社会貢献・地域貢献を行った。学校施設周囲の道路・歩道のゴミ収集・路面清掃、関係施設周辺では岡崎市と連携した“イエローカード作戦”を通じた路上排泄犬糞の放置を防止するための活動を実施している。 | | | |
| (4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿 平成29年4月1日現在 | | | |
| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
| 牧 良 | 愛知ペット専門学校 学校長 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(5年) | 学内責任者 |
| 岩本 英司 | 株式会社アイピーシー 営業部部长 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(5年) | 企業等委員 |
| 栗田 晶子 | 愛知ペット専門学校 教務主任兼ドッグトレーナー科科长 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(5年) | 学内責任者 |
| 細川 綾子 | 愛知ペット専門学校 ペットリマナー科科长 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(5年) | 学内責任者 |
| 芳賀 美咲 | 愛知ペット専門学校 動物看護科科长 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(5年) | 学内責任者 |
| 東 晃司 | 愛知ペット専門学校 ペットアドバイザー科科长 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年) | 企業等委員 |
| 伊藤 麻希 | 株式会社アイピーシー 名古屋事業部ペットサロン店長 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(4年) | 企業等委員 |
| 船本 佳実 | 株式会社アイピーシー わんわん動物園副主任 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年) | 企業等委員 |
| 宇野 哲安 | 有限会社宇野獣医科 院長 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(5年) | 企業等委員 |
| 大槻 祐介 | 株式会社アイピーシー 事業管理部次長 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(5年) | 企業等委員 |
| ※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例)企業等委員、PTA、卒業生等 | | | |
| (5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 (ホームページ) URL: http://aichipet.com/wp-content/uploads/2016/05/2016.hyouka.pdf | | | |

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当該専門課程の教育活動が実施されたことに対する活動及び成果について連携企業及び保護者や地域住民に対しわかりやすく示し、情報提供を行うことで学校としての説明責任を果たすとともに相互の理解を深め、連携の促進を図る。また、情報の共有による連携協力の促進を通じて、学校・企業・家庭それぞれの意見が反映され、教育力が高められることを期待する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|--------------------|-------------------------|
| (1) 学校の概要、目標及び計画 | ・所在地、連絡先、校長名など |
| (2) 各学科等の教育 | ・各学科の定員数、入学者数、在生徒数 など |
| (3) 教職員 | ・教職員数(職名別) など |
| (4) キャリア教育・実践的職業教育 | ・キャリア教育への取組状況 など |
| (5) 様々な教育活動・教育環境 | ・学校行事への取組状況 など |
| (6) 学生の生活支援 | ・学生相談に関する体制 など |
| (7) 学生納付金・修学支援 | ・学生納付金の取扱い(金額、納入時期等) など |
| (8) 学校の財務 | ・貸借対照表、収支計算書など |
| (9) 学校評価 | ・自己評価・学校関係者評価の結果 など |
| (10) 国際連携の状況 | |
| (11) その他 | |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:<http://aichipet.com/wp-content/uploads/2016/10/2016tenpusiryo-1.pdf>

授業科目等の概要

| (文化・教養専門課程 動物看護科) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|------------------|------------------|-----------|--|-----------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| ○ | | | ペット一般教養Ⅰ | 就職セミナー（業界の就活事情、社会人としての心構え、履歴書の書き方、自己分析の方法等） | 1後 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | 特別活動Ⅰ | スクールフェスティバルや校外学習等を通じて、協調性や課題発見力を養う。 | 1通 | 60 | 2 | | | | ○ | ○ | △ | ○ | |
| ○ | | | 共通基礎 | 犬との接し方や犬具等道具の扱い方等、犬を扱う上で必要となる基本的な習性や生理等について学ぶ。 | 1前 | 60 | 2 | △ | | | ○ | ○ | △ | ○ | |
| ○ | | | 各科実習 | 所属する部科に関わらず、ペット美容、しつけ訓練、動物看護、飼育繁殖の基礎を学ぶ。 | 1前 | 60 | 2 | △ | | | ○ | △ | ○ | ○ | |
| ○ | | | 動物形態機能学Ⅰ | 主に犬猫を中心に動物の体の構造、筋骨格系等の機能を理解する。さらに解剖学用語を習得し生命現象を理解する。 | 1前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 病原体・衛生管理 | 病原体になりうる微生物の感染予防法を理解し、動物の健康維持に努める。 | 1通 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 動物健康管理 | 健常な犬猫に必要な日常ケアと適正飼育法について理解し、個体に合った適正飼育に努めるよう飼主指導に活かす。 | 1前 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 動物医療関連法規Ⅰ | 動物愛護及び管理に関する法律における責務と規制事項を理解し、動物福祉と人との共生の観点から関連法を学ぶ。 | 1前 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 動物行動学Ⅰ | 犬猫の基本的な行動様式と学習方法について学ぶ。 | 1前 | 45 | 3 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間(単位) | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (文化・教養専門課程 動物看護科) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|------------------|------------------|----------|---|-----------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| ○ | | | 飼養管理学Ⅰ | 伴侶動物となり得るエキゾチックアニマルの生理と生態から適正飼育法及び主な疾病について理解する。 | 1 後 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | インターンシップ | 連携する企業であるわんわん動物園やペット美容室等で実務研修を行う。 | 1 通 | 30 | 1 | | | | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| ○ | | | 飼育管理実習Ⅰ | わんわん動物園が保有する多種・多頭数の生体の飼育管理能力と専門的技術の基礎力を増強する。 | 1 通 | 90 | 3 | | | | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| ○ | | | 動物飼育実習Ⅰ | わんわん動物園から生体提供を受けた担当犬に対する衛生管理を動物園業務と直結した指導教育に取り組む。 | 1 前 | 45 | 1 | | | | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| ○ | | | 動物飼育実習Ⅱ | 今の時代にあった展示動物の管理について、お客様の視線を意識した日常のケア等を通じて生体を扱う基礎力を養う。 | 1 前 | 90 | 2 | | | | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| ○ | | | 公衆衛生学 | 人と動物との間に感染する疾患、その治療法や予防法、滅菌や消毒について学ぶ。 | 1 後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 動物人間関係学 | ヒューマンアニマルボンドや動物介在福祉などについて学ぶ。 | 1 後 | 30 | 2 | ○ | | △ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 動物行動学Ⅱ | 動物の行動を理解し、問題行動の予防や抑制方法を学ぶ。 | 1 前 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 動物福祉論 | 獣医学倫理や動物の福祉について学ぶ。 | 1 後 | 30 | 2 | ○ | | △ | ○ | | | | |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間(単位) | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (文化・教養専門課程 動物看護科) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|------------------|------------------|-------------|---|---------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| ○ | | | 飼養管理学Ⅱ | エキゾチックアニマルの疾病や治療方法と、実験動物、産業動物、野生動物、展示動物について学ぶ。 | 1通 | 45 | 3 | ○ | | △ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 動物看護学 | 看護学の概論、動物の看護、終末期患者動物の看護について学ぶ。 | 1前 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 臨床動物看護学 | 内科疾患、外科疾患等様々な疾患の看護方法を学ぶ。 | 1後 | 90 | 6 | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 救急救命対応 | エマージェンシーや救急救命疾患を理解し、その際の処置方法を学ぶ。 | 1後 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 院内コミュニケーション | 受付業務、診療補助、スタッフコミュニケーション、クライアントコミュニケーションを学ぶ。 | 1通 | 75 | 2 | △ | | ○ | ○ | △ | ○ | △ | ○ |
| ○ | | | 動物看護実習Ⅰ | 輸液管理や調剤、薬浴などの薬の扱いも学んでいく。 | 1後 | 90 | 2 | | | ○ | | ○ | ○ | | ○ |
| ○ | | | ペット一般教養Ⅱ | 就職セミナー、社会人準備、経営組織等についての概説 | 2通 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 特別活動Ⅱ | 主な学校行事である球技大会、スクールフェスティバル、ゼミ発表会、校外イベント活動等の企画運営又は協力。 | 2通 | 60 | 2 | | | ○ | ○ | △ | ○ | | |
| ○ | | | ゼミナール | 卒業研究を通じてプレゼンテーションスキルを身につけ、表現力向上を図る。 | 2通 | 30 | 2 | △ | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 合計 | | | 科目 | 単位時間(単位) | | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | | 授業期間等 | |
|------------|--|----------|---|
| | | 1学年の学期区分 | 期 |
| | | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (文化・教養専門課程 動物看護科) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|------------------|------------------|----------|--|-----------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| ○ | | | 課題研究 | 卒業研究及び卒業論文の作成 | 2 通 | 45 | 3 | △ | ○ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 動物形態機能学Ⅱ | 比較解剖学、血液学、免疫学など、より高度な動物の形態機能を学ぶ。 | 2 通 | 120 | 8 | ○ | | △ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 動物病理学 | 病気の原因、発生のメカニズムを理解し、病気の診断を確定させる。 | 2 前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 動物疾病看護学 | 内科疾患、外科疾患など様々な疾患について学ぶ。 | 2 通 | 150 | 10 | ○ | | △ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 動物薬理学 | よく使用される薬の主作用、副作用などについて学ぶ。 | 2 後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 動物感染症学Ⅰ | 内部寄生虫や外部寄生虫の感染経路や感染した際の症状、予防方法などを学ぶ。 | 2 前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 動物感染症学Ⅱ | 微生物についてその生態を把握し、治療方法や予防方法を学ぶ。 | 2 前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 動物栄養学Ⅰ | 基礎栄養素及び主に犬猫に必要な栄養素、ペットフードの基本的知識を学び、個体にあった適切な食事管理を理解する。 | 2 前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 動物栄養学Ⅱ | 各疾患で使用する療法食の種類や、その注意点などを学ぶ。 | 2 前 | 45 | 3 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間(単位) | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (文化・教養専門課程 動物看護科) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|------------------|------------------|----------------|--|-----------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| ○ | | | 動物医療関連法規Ⅱ | 獣医師法や薬物関連法規を理解し、動物看護医療に従事する者としての知識を身につける。 | 2 前 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 動物繁殖学 | 主に犬猫の繁殖生理を理解し、繁殖に伴う遺伝的要因、遺伝性疾患、先天異常などについて学ぶ。 | 2 後 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 動物入院管理 | 入院動物のケア方法、看護計画、看護記録の方法などを学ぶ。 | 2 前 | 30 | 1 | | | | ○ | ○ | | ○ | |
| ○ | | | 幼齢動物・高齢動物管理 | 主に新生子期から幼年期の管理、また老齢動物の管理、介護について理解する。 | 2 後 | 30 | 1 | | | | ○ | ○ | | ○ | |
| ○ | | | 動物臨床検査学 | 尿検査、糞便検査、血液検査など各種検体の取り扱い、検査方法について学ぶ。 | 1 後 | 30 | 2 | ○ | | △ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | クライアントエデュケーション | 疾病予防や健康管理、衛生管理などクライアントに説明。 | 2 前 | 30 | 1 | | | | ○ | ○ | | ○ | |
| ○ | | | 動物看護実習Ⅱ | 動物飼育に関する技術の実践と応用。 | 2 通 | 135 | 3 | | | | ○ | ○ | | ○ | |
| ○ | | | 動物臨床検査学実習Ⅰ | 検体の処理、検査機器の取り扱いなど、実際の検体を用いて検査を行う。 | 2 通 | 90 | 2 | | | | ○ | ○ | | ○ | |
| ○ | | | 動物臨床検査学実習Ⅱ | 検査技術の実践と応用。 | 2 通 | 135 | 3 | | | | ○ | ○ | | ○ | |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間(単位) | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (文化・教養専門課程 動物看護科) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|------------------|------------------|-----------|---------------------------------------|---------|-----------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| ○ | | | 外科動物看護実習Ⅰ | 手術関連業務、術前、術後、麻酔時のモニタリングなどについて学ぶ。 | 2 後 | 45 | 1 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 外科動物看護実習Ⅱ | 外科に関する技術の実践と応用。 | 2 後 | 45 | 1 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 総合臨床実習 | 実際の動物病院などで実習を行うことで、より全的な技術、知識の習得を目指す。 | 2 通 | 135 | 3 | | | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | |
| ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | 48 | 科目 | 2400単位時間(105単位) | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|---|----------|-----|
| 2年以上在学し、総授業時数の3分の2以上の履修を前提に各授業科目の評価を受ける | 1学年の学期区分 | 2期 |
| | 1学期の授業期間 | 23週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。